

請願第2号

件名 加齢性難聴者への補聴器購入助成を求める請願書

請願者



紹介議員 羽曳野市議会議員 笹井 喜世子 黒川 実

【請願趣旨】

高齢化が進む中で加齢による難聴者が増え続けています。加齢性難聴は日常生活を不便にし、コミュニケーションを困難にするなど日常生活の質を落とす大きな原因となっています。最近では加齢性難聴によるコミュニケーションの減少で、脳の機能低下につながり、鬱や認知症の原因になると考えられています。厚生労働省が作成している「認知症施策推進総合戦略（オレンジプラン）」でも「難聴は認知症の危険因子の一つ」と言っています。また背後からの車両の接近に気づかず、交通事故や犯罪被害に遭いやすいことも懸念されています。

補聴器の使用は聞こえの向上・改善にとどまらず、認知の低下を防ぎ、社会参加を広げるための必需品となっています。高齢者が社会参加し元気で活躍することは健康な体を作り、医療費や介護費用の削減効果をもたらすとも言われています。

日本の難聴者率は欧米に比べて大差はありませんが、補聴器使用率は低く、日本補聴器工業会の調査によると、イギリス約48%、ドイツ約37%、アメリカ30%で、日本は約14%です。その原因は日本では補聴器の価格が15万円から50万円以上と高額であり、保険適用外のため全額個人負担となっています。年金生活者や低所得の高齢者にとって負担が大きすぎるため、経済的負担を軽減することが求められています。

現在、全国の50以上の自治体が補聴器購入補助を行っています。羽曳野市においても加齢性難聴者の補聴器購入に対する助成制度の創設をされるよう求めます。

【請願項目】

1. 加齢性難聴者の補聴器購入助成制度を創設してください。

令和5年8月23日

羽曳野市議会

議長 金 銅 宏 親 殿